

特集

図画工作の時間に
大切なことって？

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

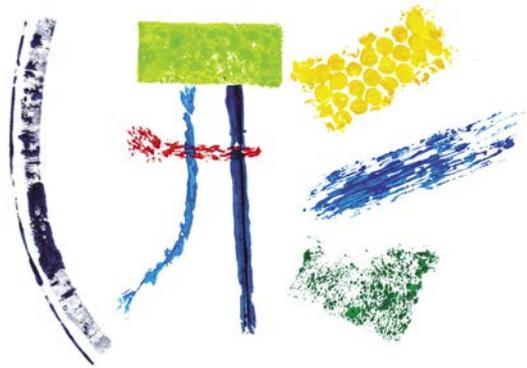
日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

「forme」は広く現代社会の要求に応える美術教育の理論と実践の紹介を目的として一九五六年に創刊されました。以来六〇年を超える長きにわたって、美術教育に寄り添って刊行を続けています。「forme」という書名は造形と人間形成をシンボライズしたものです。子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、これからも、よりよい美術教育を目指す道標となる内容を目指していきます。



Index No.317

③ 特集 図画工作の時間に大切なことって？

- その1 資質・能力はどうやって育てていくの？
 その2 授業のどこで資質・能力を育てるの？
 その3 資質・能力を育てる題材はどう考えるの？
 その4 図画工作で育った子どもの未来

⑭ 子どもの見方

| 第2回 | 子どもの視線に着目する 奥村高明

⑯ 学びのフロンティア(小学校)

いろいろないろいろな うつつして 荒木宣彦

⑰ 村上センセイが行く! 全国美術室探訪

| 第5回 | 長野市立信州新町中学校 鈴木大三

⑳ 学びのフロンティア(高等学校)

誰もが抜きやすい「電源プラグ」を提案しよう 安田 淳

㉒ ラフスケッチ

| 第7回 | 東北生活文化大学高等学校 山崎鈴花さん

㉓ ミュージアム・エデュケーションのトピバ

東京都庭園美術館 板谷敏弘

㉔ そぞろみ部

| 第9回 | 窓 文：市川寛也 イラスト：今井未知

㉔ まず見る

| 第20回 | 感触の素を探ってみる 成相 肇

㉘ インタビュー

岡部兼芳

③① 「小学校教科Web」「中美(チュービ)」

図画工作・美術の特設 Web ページを紹介

③① ABC PICK UP

阿部宏行

③② 生徒作品解説 私の見方

石田泰道



「山があるよ」「海もあるね」
 「形が組み合わさって足に見える!!」
 「何を使ったのかなあ」「わたしもやってみたいな」

身近なものに絵の具を付けて形を写すと、新しい形が現れます。
 子どもたちはその形を面白いと感じ、次にしたいことを考えます。
 ある子は次に写す材料のこと、
 ある子は次に使う色のことを思い付きます。
 それぞれの思いに合うように、試しながら表し方を工夫します。
 そうやって、自分だけのお話を作品の中につくっていきます。

自分で感じて、自分で試して、自分だけの作品をつくりだす。
 できた作品を見ているのは、作品をつくる前より少し成長した自分。
 そのくり返し、自分自身をつくっていきます。

表紙の写真より
 いろいろなうつつして

アートディレクション：清水 一(東京矢印)
 編集・ディレクション：山本武義(東京矢印)
 デザイン：東京矢印
 表紙写真：市来朋久
 表紙タイトル：青木俊輔
 特集テキスト：細川英一(ART DIVER)

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。

例： | 小 | 中 | 高 | 特に小学校に関連の強いコーナーを表します。

図画工作の時間に 大切なことって？



「知識及び技能」

「思考力、判断力、表現力等」

「学びに向かう力、人間性等」

新しい学習指導要領では、
※全ての教科において、育成を目指す「資質・能力」が
三つの柱で整理されています。
もちろん教科によってその育み方は違いますが、
図画工作の授業では、どのようにして「資質・能力」を
育んでいけばよいのでしょうか。
実際の授業風景などを見ながら、一緒に考えていきましょう。

※ただし「特別の教科 道徳」を除く。

授業の主人公は子ども

図画工作は身体性を基盤とした教科です。手で触ったり、体を動かしたりする中で得られた感覚は、子どもにいろいろな気づきをもたらします。
例えば、一つのリングがある時、そのリングを実際に見たり、触ったり、味わったり、さらには、かいたり、つくったりすることは一人ひとり全く違う固有の体験であり、そこにはただ一つとして同じリングはありません。

また、知識は、他者から一方的に与えられるものではありません。子ども自身が、自らこうしたいという思いを基に、様々な表現手段の中から選び取り、試行錯誤し、実現していく過程で、本当に使える知識が身に付いていきます。表現活動のプロセスの中で「気づき」や「喜び」が得られた瞬間にこそ「資質・能力」は発揮されているのです。

図画工作で育む資質・能力。
簡単に言うと……。



【知識及び技能】

形や色などについて自分で試して気付いたり理解したりする力や、身に付けたことを生かして工夫する力



【思考力、判断力、表現力等】

形や色などのよさや美しさを感じたり、考えたり、形や色などからイメージをもつ力



【学びに向かう力、人間性等】

やってみよう! と思ったり、今度はどうしようと考えたり、造形的な視点で生活や社会をよくしようと考えたりする力

「資質・能力」は共通なんだね。

図画工作ではそれを、**身体を動かしながら育む**のか。
でも具体的にどうすればいいのかな……。



今回も、スガ コウサク先生と一緒に考えよう。
(採用3年目、ただいま勉強中!)

その1

資質・能力はどうやって育んでいくの？

「身体性」を基盤とした図画工作では、
子どもが「自ら感じる」「自ら試す」「自らつくりだす」ことが大切です。
「感じる」「試す」「つくりだす」ことは、資質・能力の育成に
どのように関わっているのでしょうか。
長年教科書づくりに携わる辻政博先生に聞きました。

感じる



場をつくるのが 教師の役目

辻政博
帝京大学教育学部初等教育学科教授



図画工作の時間に「資質・能力」を育むには、「自ら感じる」「自ら試す」「自らつくりだす」という三つの行為が大切です。これらは生来、子どもにも備わっているものです。これらの活動が、十分発揮できる環境を整えることが、図画工作での資質・能力を育む第一歩となります。

「感じる」行為は、多様な素材に触れることから始まります。身体は世界と触れ合うメディアです。素材と触れ合い、素材の特徴を感じ取る中で、自ずとつくりたいものが生じてきます。一部の子どもの中には、何をつくったらいのか分からないために、表現への苦手意識をもってしまう場合もあるようですが、つくるものが分からないときに、無理につくらせる必要はありません。低学年のうちからたくさんの素材に触れ合い、遊ぶことによって、次第に表現への抵抗感は、なくなっていくと思います。



試す



つくりだす



中学年になると、素材を切ったり、組み合わせたりという操作が巧みになり、活動への積極性が高まってきます。低学年で培った素材感覚を土台に、どんどん「試す」ことが、自分のイメージの形成に大いに役立つことでしょう。

高学年を迎える頃になると、徐々に子どもの主観と客観が分離し、自意識がはっきりとしてきます。ものを対象化する一方で、自分という存在を考える時期でもあります。子どもは、表したいものや表し方、また、活動の方法などを自分自身で考え実行する、「つくりだす」力を発揮し始めます。

中学、高校へと進むにつれ、子どもの世界はさらに広がっていきます。異文化やグローバルな社会の多様性に触れながら、視野を広げていくことでしょう。

ここでは「感じる」「試す」「つくりだす」を時系列で捉えてみましたが、これらは同時に、個々の活動場面の中で働くものです。

教師は授業の中で、子どもが「自ら感じる」「自ら試す」「自らつくりだす」ことのできる環境づくりを心がけ、子どもの資質・能力の変化や成長を見守っていくことが大切です。
(次ページへ続く)

つじまさひろ 一九五四年、東京都生まれ。図工専科教員として三十年間勤務、東京都図画工作研究会会長を経て、現在帝京大学教育学部初等教育学科教授。NHK Eテレ「キミなら何をつくる？」の制作アドバイザー、NPO法人市民の芸術活動推進委員会理事などを担当し、日本文教出版小学校図画工作教科書の代表著者の一人として図画工作教育の発展に努める。

子どもたちはみんな
生まれながらに、感じ、試しながらつくりだしてきたんだね。
それを繰り返すことが、資質・能力の育成につながるのか。



その2

授業のどこで資質・能力を育むの？

図画工作の時間、子どもたちはどんな時に資質・能力を育んでいるのでしょうか。引き続き、辻先生のお話と、教科書の題材「ともだちハウス」※を例に子どもたちの資質・能力が育まれている様子を見てみましょう。

※平成27年(2015年)度版 小学校図画工作科教科書「ずがこうさく1・2下」p.44・45

みんな楽しそうに活動しているね。



エレベーターがあるんだ



エレベーターを付けると楽しくなることを思い付いたんだね。



ひもを使って本当に動くように工夫したんだね。



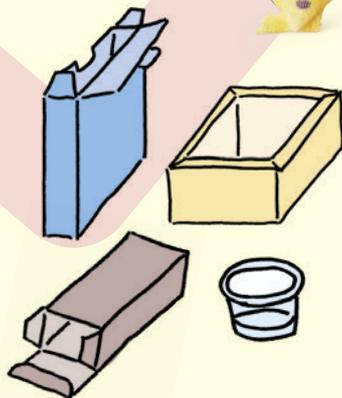
スタート!

ともだちハウス

集めた材料の使い方を工夫して「小さな友だち」が喜ぶ家を楽しくつろう!



細長い箱と煙突の形が似ていることに気付いたんだね。



煙突を付けてあげよう



表現プロセスを
丁寧に見る

かつての図画工作では、完成作品だけで評価をするケースが多かったのですが、「資質・能力」を育むためには、教師は子どもの表現活動のプロセスを丁寧にみていくことが大切になります。

何をつくりたいかという「発想」、どう表しているかといった「技能」に注目すれば、子どもに起こる小さな変化にも気が付けるはずですよ。

発想に行き詰まったり、技術的に困ったりしている子どもを見かけたら、寄り添って支援してあげましょう。「先生が見ていてくれる」「共感してくれる」という安心感は、子どもの自由な表現を後押しします。友だちとの会話や友だちの活動にヒントが隠されていることもありまます。「発想」や「技能」は、つくる過程の中で、更新していくものでもあります。

授業中、鑑賞の時間を設けるのもよいでしょう。自分の表現



次の活動へ



家の中に
草のベッドが
あるよ



裏にある蓋を
開けると、
かわいい部屋が
あるよ



「小さな友だち」が
喜んでくれて
うれしいね。



どの家も
表したい思いのあふれた
楽しい家になっているね。



箱の形を生かして
作り方を
工夫しているね。



二階も
つくって
あげよう

試すうちに
思い付いたんだね。



どんな
感じに
見えるかな

覗いてみると、
「小さな友だち」と
一緒にいるみたいで面白いね。



だけでなく、友だちの表現の面白さやよさを見付け共感したり、自分とは異なる見方・考え方を見付けたりする経験は、多様な価値観を育むベースになります。多様性を育むことは、答えが一つでない図画工作という教科の、最も得意とするところなのです。

どんな時でも、子どもたちは全身で感じ、試しながら
資質・能力を育んでいるんだね。

子どもの姿と作品、両方から見てあげることが大切なんだな。



その3

資質・能力を育む題材はどう考えるの？

子どもたちが資質・能力を存分に育むことができる題材とは一体、どのようなものでしょうか。

ここでは題材を料理に例えて、よい題材とは何かを考えます。



三要素のバランス

図画工作の授業を「料理」に例えるなら、どんな材料や用具を使うかは「食材」、活動内容が「調理方法」となります。よい食材を使つてうまく調理ができれば、きつとおいしい料理となるでしょう。

しかし、必要な「栄養」が欠けていたら、ほんとうによい料理と言えるでしょうか。図画工作の授業にとっての「栄養」は、育みたい「資質・能力」です。栄養のない料理では不健康になるように、「資質・能力」を育てる視点が欠けた授業では、子どもたちの能力は育ちません。おいしい料理のように、「材料や用具」「活動内容」「資質・能力」の三つに配慮することで、よい題材になるでしょう。

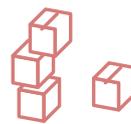
題材選びは、自分の目の前にいる子どもたちにどのように育ってほしいかという「願い」から始まります。子どもの実態や「願い」に即しながら様々な題材を選び、配列することが大切です。その際、子どもにとって難し過ぎず、かつ簡単過ぎない、適度な抵抗感のある材料や用具と活動内容を考えることもポイントです。



教科書題材



同じ材料・違う活動



材料



活動内容①

箱を並べたり
積んだりしながら
活動を楽しむ

造形 遊び

活動内容②

箱を組み合わせて
思い付いたものを
つくる

立体に 表す

資質・能力

- ◎いろいろな箱を使って活動することを楽しむ
- ◎箱に触れながら、いろいろな形や色の箱があることに気付く
- ◎いろいろな箱に触れながらしてみたいことを考える
- ◎してみたいことをどんどん試す
- ◎箱の形や色を生かして活動を工夫する
- ◎箱の形や色などによって違うことに気付く

資質・能力

- ◎箱の形や色から思い付いたものをつくることを楽しむ
- ◎箱の形や色などから表したいもののイメージを持ち、表したいものを思い付く
- ◎表したいものに合うような形や色の箱を選ぶ
- ◎はさみやテープなどの用具の使い方に慣れ、使い方を工夫する
- ◎できた作品の面白さや楽しさを味わう
- ◎箱の形や色がいろいろなものになることに気付く



いろいろなはこから

平成27年(2015年)度版 小学校図画工作科教科書
「ずがこうさく1・2上」p.26・27



はこでつくったよ

同p.36・37

教科書でも、育みたい資質・能力(栄養)を大切に、様々な材料や用具(食材)を使った楽しい活動内容(調理方法)になるような題材(料理)を提案しています。その中には同じ材料や用具を使っても、育みたい資質・能力が違うために、活動内容の違う題材があります。

例えば、上の図の「いろいろなはこから」「はこでつくったよ」という題材は、ともに箱が材料ですが、育みたい資質・能力が違うので、活動内容も分野も違います。同じ食材(材料や用具)でも調理方法(活動内容)が変わると取れる栄養(資質・能力)が変わるところも料理と同じです。育みたい資質・能力(栄養)がはっきりしないと、どのような活動内容(調理方法)がよいのかもはっきりしません。

また、料理も題材も、いつも同じようなものでは飽きてしまいます。教科書の題材からいくつかを選んで年間の計画をたてる時にも、給食の献立を考えるように、資質・能力、材料や用具、活動内容に偏りがないようにすると、子どもたちは楽しく資質・能力を育むことができるのではないのでしょうか。

(編集部)

目の前の子どもたちをしっかりと見て、
どのように育ってほしいのかを考えること
子どもたちが感じ、試してつくりだす題材が生まれるんだな。



その4

図画工作で育った子どもの未来



子どもたちは、図画工作でどんなことを学んだと感じているのでしょうか。そして大人たちは、学んだことをどのように生活や社会で生かしているのでしょうか。実際の子どもたちや活躍する人の言葉などから、図画工作の力でつくり出す未来を覗いてみましょう。

形や色が、人の行動を変える

FAVELA PAINTING



二〇〇五年にブラジルのスラム街を訪れたオランダ人のアーティスト二人によって始められたアートプロジェクト。治安に問題を抱える地区の住居を、その地区で暮らす人々の手でカラフルに彩ることによる、その地区に明るいイメージと社会的な変化をもたらした。このプロジェクトは世界各地に広がっている。

家庭科の調理実習の時に、おいしそうって言ってきて、盛り付けにこだわったから造形力だなんて思いました。そう思うと、造形はいろんな社会につながってくると思います。

子どもたちへの思いが、新しい形をつくり出す くじらナイフ



高知県香美市にある富士源刃物製作所で製造されている「くじらナイフ」。子ども用に先が尖っていないナイフがほしい」という依頼から、デザイン画を描く際に頭を丸くして持ちやすくするうちに自然とくじらに似てきたという。ホエール・ウオッチングの里としてのアビールにも役立つ、機能美から生まれたナイフ。

夕焼けを見て、美しいなって思えるようになった。

表現は自由！だからこそ、こだわらずと終わらない!!!

少年時代に描いた風景がいま建築空間に蘇る 伊東 豊雄さん



伊東 豊雄 / 建築家、主な作品に、「せんだいメッセアテック」、「みんなの森さふメディアアコスモス」、「台中国家歌劇院」(台湾)など。日本建築学会賞、ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞、プリツカー建築賞など受賞。

私は小学校時代を長野県の諏訪湖の畔で暮らしました。家の庭が湖に面していたので季節毎に、或いは時刻とともに変わる水の表情を日々見つめていました。冬になると湖は全面結氷し、周囲の山々も雪に覆われて美しい白一色の世界となりました。そのような自然に囲まれた日常の中で、美術の時間も自然の風景ばかりを描いていたように記憶しています。後に設計を始めから、若いうちは自分の考える建築空間が少年時代に描いていた諏訪の風景と関係があるとは夢にも思っていませんでした。しかし次第に齢を重ねるにつれ、自分のイメージする建築空間は当時の原風景と深く関係しているように思われてきました。鏡のように静かな水面、木立ちの間から差し込む木もれ陽、少年時代に描いたそんな風景が今、三次元の建築空間として蘇っているのです。



指先から始まるモノづくり

でんだ みつひろ
傳田 光洋さん



傳田光洋 / 一九八五年京都大学工学研究科修士課程修了。京都大学工学博士。カリフォルニア大学サンフランシスコ校研究員を経て、二〇〇九年から資生堂APC主幹研究員、二〇一〇年から国立研究開発法人JST CREST研究者を兼任。

作ってきた。手先は器用じゃないのだが、小学校時代、図画工作の成績はよかった。もともモノづくりが好きだったのかな。人類は手から進化したという。直立歩行を始めた四〇〇万年前の御先祖の脳の大きさはチンパンジーなみだったが、手の構造は現生人類に近かった。手を使って作業していると新しい研究案を思いついたりする。私は手を使って考えているようだ。

言葉より絵で会話するように、世代や国籍を超えて美術を通して人とつながっていけるようになればうれしいですね。(forme316ラフスケッチより)

自分で考えるのが難しいときもあったけれど、どの題材も自分で考えられたことが自信になりました。

社会で生きていくためのトライ&エラー

とさ のぶみち
土佐 信道さん



土佐信道 / 芸術ユニット明和電機。様々なナンセンスマシンを開発しライブや展覧会など、国内外で広く発表している。音符の形の電子楽器「オタマトーン」などの商品開発も行う。

工作とは、「工夫して作る」の略だと思う。それは「何を作るか」発想し、どういう方法で作るか、とにかくトライ&エラーしてみよう」ということだ。そのためは、国語・算数・理科・社会などで学んだ知恵をフルに使い、あってもない、こうでもないと手を動かして一つのものをつくりあげる「総合力」が必要だ。ときには失敗もするが、失敗こそ「総合力」を身に付ける肥しになる。「総合力」は社会で生きていくために重要な要素だが、最近では工作の授業が減り、たて割りの学科が増えているらしい。なんだかとても重要な要素を削っている気がしてならない。

答えは自分にあることが分かりました。だからこそ難しく、適当にしちやいけないって思いました。

ピンクが好きでもいいんだと思えるようになりました。

自分が思ったこと、考えたことを形にできる学習でした。イメージしたことを、とことんこだわる力がつきました！

「なんで、その形にしたんだろう。」
「なんでその色を選んだんだろう。」と観るようになりました。美術館に行くのが好きになりました。

必要なものを、あるものを組み合わせる

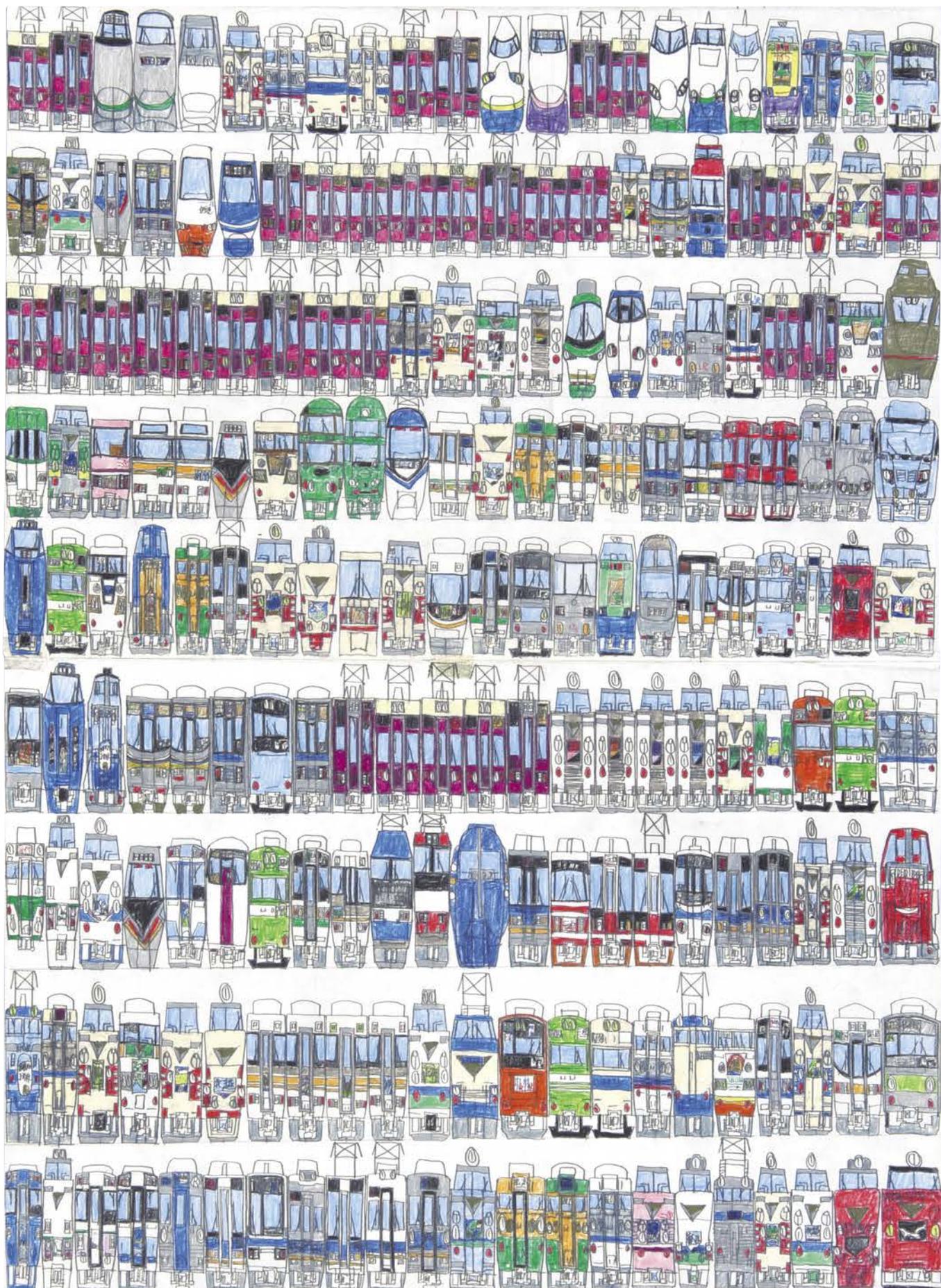
らんる
襦



物資が不足していた時代には貴重品だった布。年月を経てほつれや破れが生じた着物は、布が当てられ刺し子されて、長年にわたって受け継がれている。あるものに手を加えて使い続けることで、新たな存在感と美しさが生まれ、独自の命が吹き込まれる。襦は「ぼろ(BORO)」とも呼ばれ、世界でも通じる美として認知されている。

みんな「感じる」「試す」「つくりだす」ことを繰り返して、たくさん学びを実感しているんだね。子どもたちがワクワクするような未来をつくりだせるように、これからも頑張ろうと。





子どもたちもきっと本岡さんのように、感じたことを大切にしながら、自分だけの作品をつくりだしているんだろうな。
身近な好きなものを夢中になって描くって素敵だな。



電車

鉛筆・色鉛筆・紙

830×297cm

1995 以降

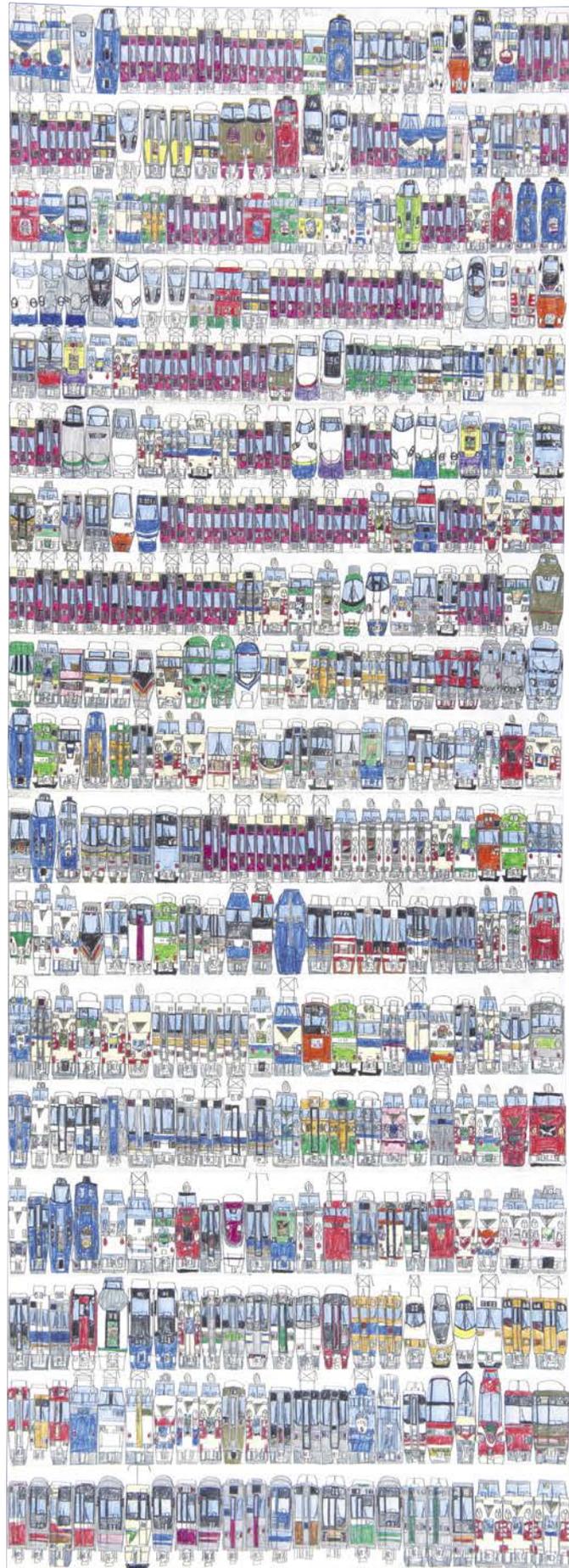
もとおかひでのり
本岡秀則

兵庫県

1978 ~

「知っている電車をすべて一度に見渡したい」。
そうした作者の純粹な思いは、
電車の形を縦に引き伸ばすという、
どこにもない独自のスタイルを生み出した。

詳しい解説は
こちらから▼



目の前の子どもの姿から「その子が達成していること」

「発揮している資質・能力」を捉えましょう。

基本は「転心の術*1」。

目の前の子どもに、自分自身を投げ込みます。

奥村先生の
子どもの
見方
#2



子どもの視線に着目する

「外から基準」で子どもの視線を捉えることはありません。

その子になりきる行為です。

想像力を働かせて「その子自身の視線」になってみましょう。

その子が見ている世界を感じてみましょう。

つくるまなざし

手前の子の手元を見ています。

体を前に傾け、まぶたを見開いて、
のぞき込んでいます。



「いろいろいろいろ うつつて」の活動より



平成27年(2015年)度版 小学校図画工作教科教科書「図画工作5・6下」 p.6掲載

ローラーを動かすたびに、黄とオレンジの色の境目が消えてグラデーションがなだらかに
なっていく、恐らくその変化を捉えようとしているのでしょ
う。同時に「ああすればいいんだ」と技能をつかんでいるの
かもしれません。

このような場面を見付けたら、「どこを工夫しているの?」と聞いてみましょう。恐らく「ここがね……」と教えてくれます。この時、教師は技能の発揮を具体的に理解できるように。

何かを得ようと明確な意思をもっている視線です。粘土のどこを見ているのでしょうか。目と手は連動しています。右手で、丸められた粘土の板の、微妙な位置や角度を調整しているのかもしれない。



まなざしからも、その子が感じていること、
試そうとしていることに気付けようだな。
子どもの視線になって、どんな声をかけようか考えてみよう。



本誌p.16・17 学びのフロンティア (小学校)
「いろいろな うつつて」の活動より

確かめるまなざし

刷った直後、真っ白い画用紙に反転した形と色を見えています。

このような場面を見付けたら、「どうだった？」と声をかけてみてはどうでしょうか。「うまくいったよ」なのか「思ったようにならなかった」なのか、この子の言葉次第で、次の指導を具体的に展開できるはずですよ。

画用紙とこの子には一定の距離があります。あえて「距離をおく」ことで、作品から離れ、もう一人の自分から、作品を見つめようとしています。思い通りにいったかどうか、**確かめ、考えている**のでしょうか。

伸びるまなざし

左奥の子が、



本誌p.16・17 学びのフロンティア (小学校)

このような場面を見付けたら、しばらく後のこの子の活動を楽しみにしましょう。自分で色を確かめて**知識**を獲得したり、もしかすると**技能**をもつと**発展**させたりしているかもしれません。

まとめ

子どもの視線から、子どもが見ているものを予想したり、確かめたりしてみましょう。もし、子どもの視線と同化できれば、そこから子どもの発揮している力に気付くことができます。そして、資質・能力がつかめれば、具体的な指導が生まれます。指導とは、具体的な子どもの事実の次に起こる出来事です。まずは「子どもの視線」を捉えることが大切です。

おくむら たかあき
文：奥村高明

日本体育大学
児童スポーツ教育学部 教授

1958年宮崎県生まれ。小中学校教諭、美術館学芸員の後、文部科学省教科調査官として学習指導要領の作成に携わり、現職。日本文教出版 Web マガジン「学び!と美術」執筆者。

〈今号のひと言〉

語彙数が増加すると、どうしても駄洒落を思い付いてしまう。それを言うてしまうのが「おやしギャグ」だと思っていた。先日、TVでも実験していた。60代の自制心は小学6年生と同じらしい。それが原因か……。



*1：奥村高明『マナビズム「知識」は変化し、「学力」は進化する』 東洋館出版社 2018 P.192-195



小

学びのフロンティア
授業実践

小学校三年生

いろいろいろいろ うつつて

自由にのびのびと、自分の思いを版に表す



藤ノ森小学校の荒木宣彦先生が実践する「いろいろいろいろ うつつて」は、「いろいろうつつて」※をベースにした授業。紙版画を中心に、いろいろな「材料」「形」「色」「わざ」を使って、思い思いの表現にチャレンジします。お互いの発想や感じ方が響き合い広がっていく授業、そのポイントをお聞きました。
※平成27年(2015年)度版 小学校図画工作科教科書「図画工作3・4上」p.48・49

京都府 京都市立藤ノ森小学校 あ ら き の ぶ ひ こ 荒木 宣彦 先生

題材名でワクワク感を高める

題材名を「いろいろいろいろ うつつて」としたことには、二つの意図がありました。一つ目は、「なんで『いろ』が四つ？」という子どもたちの興味を引くため。二つ目は、めあてを子どもたちに伝えるためです。まず、教科書の作品を見せて「この作品は『四つのこと』をよく考え、工夫して表されています。この『四つのこと』が今回の題材でみんなに頑張ってもらいたいことです。何だか分かるかな？」とクイズを出しました。「いろんな色で刷ってきれい」「葉っぱも使ってる。材料を工夫してるよ」などと、子どもたちは作品をじっくり鑑賞し、「材料」「形」「色」「わざ(＝写し方)」の四つの工夫を見付けました。クイズを一生懸命考えるうちに、自然にめあてにたどり着けるようにしたかったんです。

その後、一、二年生でやったスタンプや紙版画などの写し方の手順を振り返る動画をみんなで見ました。事前のリサーチで、

子どもの版画の経験にバラつきがあることが分かったので、手順を思い出す時間を十分に設け、足並みを揃えてから版づくりをスタートできるようにしました。

刷ったときの感動を共有する

版画のだいご味は、やはり刷った形が写った瞬間ですよね。一番に版ができあがった子どもがいよいよ刷るぞ！という場面では、子どもたちを集めてみんなで刷る瞬間を見守りました。紙をめくると、くっきり写った大きな船の形が！子どもたちの目が輝き、「刷りたい」気持ち広がります。図工室の温度が一気に上がりました。

実際に刷って、写った形や色を見ることで、「版の材料や写し方を工夫すれば、もっと面白くなりそう！」という気付きが生まれます。

「羽はプチ」





指導計画

学びに向かう力、人間性等

自分の表したいことを版に表す喜びを味わい、お互いの表現のよさや面白さを認め合う。

思考力、判断力、表現力等

写った形や色の面白さを感じ取りながら、表したいことに合うように材料の使い方や写し方を考える。

知識及び技能

写った形や色、それらの組み合わせによる感じを捉え、版の材料や写し方を工夫して表す。

題材の目標

- いろいろな「材料」「形」「色」「わざ」を使って版に表す活動への興味や関心をもつ。
- 表したいことに合わせて、形や色、材料の組み合わせや表し方を考える。
- 刷りの効果を考えながら材料を生かして版をつくり、工夫して表す。
- 写った形や色から思い浮かんだことを基に写し方を工夫して表す。
- 友だちの活動や作品から、よさを感じ取る。

主な学習内容

学習目標

材料を生かして版をつくり、形や色の組み合わせを考えながら版に表す。

材料・用具

画用紙、身辺材、はさみ、のり、木工用接着剤、版画用紙、版画用具一式、コンテ、パス、テル、水彩絵の具

領域

A 表現・B 鑑賞

時間

八時間

「いろいろいろいろ うつして」 活動の流れ

みんなで鑑賞する



完成作品が、教室いっばいに並びます。楽しそうに見て回る子どもたち。互いの作品を見て、「いいね！」を伝え合います。

版や写し方を工夫する



「版に使いそうな材料はないかな」と図工室や校庭をキョロキョロ。スタンプなどの「わざ」も使って、表現が深まっていきます。

色をつくって刷る



版ができたらいいよ！刷りへ。期待に胸が膨らみます。友だちがつくった版や刷り上がりの様子にも、興味津々です。

版をつくる



導入で膨らんだイメージを基に、版づくりスタート。形を切り取った後の、切れ端からも発想が広がります。

めあてを見付ける



教科書の作品の拡大図から、4つの「いろ」の意味を探ります。近付いてよく見て考える子どもたち。

Message

よく思い付いたな！
「えっ、そんなこと
と驚かされてばかりで、僕の
予想を軽々越えていくんで
す。しかも、発想も表し方も
一人一人違う。子どもたちの
個性あふれるアイデアをたく
さん知ることができて、どの
子のアイデアも「それ、めっ
ちゃおもしろいやん！」と伝え
ることができる。そんな図工
の時間が、楽しくて大好きな

多様であることを面白がる人に！



子どもって、めちゃめちゃおもしろいですよね。
「えっ、そんなことと驚かされてばかりで、僕の予想を軽々越えていくんです。しかも、発想も表し方も一人一人違う。子どもたちの個性あふれるアイデアをたくさん知ることができて、どの子のアイデアも「それ、めっちゃおもしろいやん！」と伝えることができる。そんな図工の時間が、楽しくて大好きな

「いいね！」を伝え合う

完成した作品には、タイトルと最も注目してほしいところを「二行」で書いたカードを貼って鑑賞し合います。この短さがポイントで、「一番頑張ったところはどこだろう？」と活動を振り返ることになります。

「いいね！」を伝え合う

「プチを使う」「二色のインクを混ぜて刷ったらどうなるかな」など、新しいアイデアが広がっていきましました。

鑑賞後は、友だちの作品を一

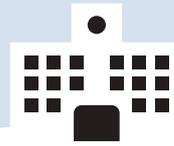
つ選んで、いいなと思ったところをカードに書き、作者に渡します。これは題材が終わるたびにやっているのですが、この繰り返しによって、子どもたちは友だちの作品のいいところを見付けるのが大得意になりました。今では「先生、一つに絞れませんか！」と言いに来るんです。友だちの作品を見て「それぞれ違うけど、どれもいいな」と思えることは、図工のいいところだと日々感じています。



友だちのしていることもよく見て、いろいろいろいろ感じ取っているんだな。それが発想や工夫につながって、自分なりの作品になっていくんだね！



子どもたちの作品と、荒木先生が保護者に向けて描いた子どもの学びを伝える漫画をご覧くださいませ。



全国美術室探訪

隣の中学校は何をしているの？

美術教科書著者である村上尚徳先生が全国の美術室を訪問。
“村上先生視点”で、現場の工夫や先生方の美術教育への思いに迫ります。



第5回

長野市立信州新町中学校

鈴木 大三 先生

子どもの視点に寄り添う先生が
少人数学級ならではの空間をつくる！

余った机を共有机にして
H字型のグループ班をつくる

村上 今日、見学させていただいた授業では、ユニークな机の配置が目を引きました。

鈴木 四人一組で机を向かい合わせ、間にグループの共有スペースとなる机を一つ置いて、H字型に配置しています。

村上 その発想はどこから？

鈴木 一学年一クラスへと生徒数が減り、机が余っている現状を、生徒のための空間づくりになかせないかと考えていくなかで、この机の配置を思い付きました。

村上 全員が黒板に向いている配置と違って、隣にも前にも他の生徒がいるから自然と対話が生まれそうですね。

鈴木 実際、生徒たちはよく話していますね。美術室では生徒たちが自然に互いの制作物を見て刺激を受け、対話ができる「グループづくり」を大切にしたいと思っています。

村上 素材らしいアイデアですね。

鈴木 有機に材料や用具を置き、グループ内で共有することで、それぞれの生徒は自分の机全体を活動に使えるので伸び伸びと創作できるんです。

材料や用具は教室の後方に

村上 材料や用具は、教室の後方に集約しているんですね。

鈴木 生徒が材料や用具を手に取りやすい「環境づくり」を意識しました。以前は材料や用具を黒板の前に並べていたのですが、生徒たちは心理的に教壇の近くには出て来ないんですね。逆に教室の後ろにあるものには気兼ねせず、興味をもって手を伸ばします。黒板周辺は情報量が少ない方がよいというユニバーサルデザインの観点からも、現在のレイアウトにしました。



鈴木大三

愛知県出身。
1993年より長野県の公立小中学校に勤務し、2017年より現職。教頭職の傍ら、全校の美術の授業を担当。



▲ 発想のきっかけとなるポップアップの基本形は、いつでも確認できるように壁に掲示。

▲ 鑑賞の授業のときは共有机を抜いて寄せれば、生徒同士の距離が縮まり、より深い対話生まれそう。



▲ 印象に残る大きな筆書き文字で表現のポイントを示す。



▼ 材料や用具は、生徒が気兼ねなく触れるように教室の後方に集約。



▲ 全クラスの材料や用具をあらかじめトレーにセット。授業ごとに共有機の上のトレーを交換している。

上手製のマグネットシートで表現のポイントを明確に
村上 情報という面では、黒板にポイントを板書せず、マグネットシートにして貼っていたのはなぜですか？
鈴木 「学習問題」「学習課題」「まとめ」などのテーマは長野県の教育指導方法なんです。表現のポイントとなる「切り込み」「太さ」「数」などは私の自作です。
村上 造形的な視点を貼り出すことで、子どもたちに明確に伝わりませんか。
鈴木 美術に苦手意識をもっていている生徒でも表現のポイントが分かり、自分の表現を楽しんでもらうための工夫です。
生徒作品は廊下に発想のヒントは教室に
村上 美術室内には、生徒作品が

探訪を終えて...

今回訪問した信州新町中学校の美術室の特色は、生徒数の減少を教室環境の改善に生かしていることです。余った机を利用したH字型の座席配置は、作業も話し合いもしやすい空間をつくりだし、教室後ろの空きスペースは、材料・用具コーナーになっていました。このような教室環境の中で、生徒は夢中になって制作に取り組んでおり、授業が終わった後も教卓前に集まり、楽しそうに次週の授業の構想を練っていました。

あまり掲示されていませんね。
鈴木 生徒作品は全校生徒や保護者、地域の方々にも見ていただけるように、廊下などに展示しています。その分、美術室には題材の参考資料や美術作品などを掲示し、美術に囲まれている「雰囲気づくり」を目指しています。
村上 なるほど。廊下の掲示は

「社会に開かれた美術教育」につながる工夫ですね。
鈴木 そのつもりです。そして教室は生徒たちの空間なので、美術室も、生徒たちが使いやすく、楽しい空間にしたいと思うんです。そのためにグループ・環境・雰囲気づくりなどを工夫して、生徒たちの視点から美術室をつくっていききたいです。

今日の一枚 /



授業中も、子どもと同じ目線の鈴木先生。



むら かみ ひさのり
村上尚徳
 IPU・環太平洋大学副学長
 次世代教育学部教授

岡山県出身。岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省教科調査官、及び国立教育政策研究所教育課程調査官に。平成20年の中学校美術、高等学校芸術（美術・工芸）の学習指導要領改訂に携わり、2011年より現職。



対談の動画は
 日文チャンネルでご覧いただけます。

高

学びのフロンティア
授業実践

高校一年生

誰もが抜きやすい 「電源プラグ」を提案しよう

使う人をイメージしてプロダクトデザインを考える

「デザインってなに？」という問いに、「カッコいい製品のこと？」や「きれいな形や色のこと？」などと、疑問に思う生徒も少なくありません。そんな生徒たちとともに安田先生が取り組む、デザインの授業とは……？
使う人をイメージしたプロダクトデザインの題材ならではの工夫や仕掛けについてお聞きしました。

石川県 石川県立工業高等学校 安田 淳 先生

体験から
ものと手の関係を考える

絵画や彫刻の授業では、主に自分主体で発想する作品づくりに取り組めます。一方、デザインの授業では、「相手」を考慮して主題を生み出すことが大切です。ユーザーが製品のどこに不便さを感じ、その課題はどんな形や機能であれば解決できるのか。そんなことを考える中で、身の回りにおけるデザインの背景を知ってもらいたいと思います。今回の授業を組み立てました。

授業の導入で取り組んだのは「ハサミの考察」です。持ち手が左右対称のものとは非対称のものを渡して、指の置き所はどう違うか、どちらが切りやすいかなどを観察・分析しました。これから電源プラグのデザインをすることは伝えずに、普段よく使うものと手の関係から「使いやすいさ」を考えるようにしたところがポイントです。これによって、製品の素材や形と手の関係、形と機能の結び付きに着目する視点が芽生えました。

構造を変えずに使いやすくする

二時間かけて、ハサミに加えてトングについても考察し、その後、初めて「電源プラグをデザインする」と伝えました。電源プラグを題材に選んだ理由は、「そもそも使いにくい」から。まずは四、五人のグループごとにプラグとテーパータップを渡し、「固い」「抜きにくい」ということを体感してもらいました。その後、「実は安全のために抜きにくくなっている」ということを説明し、構造について体感・理解する時間をつくりました。

この時間によって、抜きにくさを解消するためには、構造を変えずに、持ち手となる部分の形や素材を工夫する必要があると理解し、問題を解決するための着眼点を整理することができ、アイディアスケッチでは、「持ち方やつまみ方によって変形する、柔らかい素材のプラグがよいのでは」「サイドに紐を付けて引っ張れるようにしたらどうか」などのアイデアがたくさん出ました。▽



指導計画

鑑賞の能力

生活の中にある造形的なよさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を豊かにするための美術がもつ意義や働きを理解する。

創造的な技能

意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して目的や条件を基に表現する。

発想や構想の能力

デザインの目的や条件、機能と、造形的な美しさとの調和を考え、課題を発見し、主題を生成して創造的な表現の構想を練る。

美術への関心・意欲・態度

電源プラグの目的と機能、美しさなどを考えて表現することに関心をもち、主体的に主題を生成し、創意工夫して構想を練ろうとする。

題材の目標

電源プラグの目的と機能、美しさなどを考えて表現することに関心をもち、主体的に主題を生成し、創意工夫して構想を練ろうとする。

● アイデアスケッチやクレイモデルを制作しながら、誰もが抜きやすい電源プラグのデザインの構想を練る。

● プレゼンテーションボードを制作し、デザインを提案し合う。

主な学習内容

● 道具とそれを持つ手を観察し、使いやすさと使いにくさを考え、手と製品の関係を考察する。

● 構造を理解し、大きさや形、素材から電源プラグがコンセントから抜きにくい理由を考え、問題を整理し、抜きやすくするための方法を考察する。

領域

A 表現(2) デザイン

時間

一六時間

材料・用具

紙鉛筆、色鉛筆、水彩絵の具、粘土、など

学習目標

電源プラグの抜きにくさの原因と課題を発見し、誰もがコンセントから抜きやすい電源プラグのデザインを構想し提案することで、生活や社会を豊かにする美術の働きについて理解を深める。

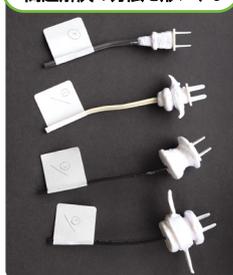
誰もが抜きやすい「電源プラグ」の提案まで

プレゼンテーションする



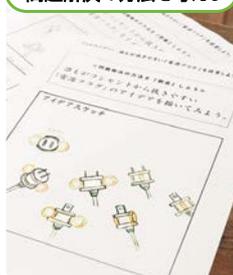
最後は製品のキャッチコピーや特長などをまとめたプレゼンボードを作成し、完成品を見せながらプレゼン!

問題解決の方法を形にする



粘土で試作品を制作。立体にして触り、観察して、考えを深め、プロダクトとしての完成度を高めました。

問題解決の方法を考える



どのような形状、素材がよいか、どんなつまみ方を促すべきかを考え、「抜きやすいプラグ」のアイデアを練ります。

構造を理解する



実物を手にしながら抜きにくい理由を話し合うことで、プラグとタップの構造を深く理解することができました。

観察する



様々な形状のハサミを持ってスケッチしながら、指の置き所や手の形、使い勝手などを観察しました。

Message

美術の授業におけるデザインは、目的や機能置き去りにして、色や構成の基礎を学習して終わりになってしまいうことが少なくありません。しかし、デザインには、人のために何かをつくり、それが人々の生活をよりよくすることに繋がることが求められます。デザインにおける目的と機能を考える、問題解決型の授業



美術の授業におけるデザインは、目的や機能置き去りにして、色や構成の基礎を学習して終わりになってしまいうことが少なくありません。しかし、デザインには、人のために何かをつくり、それが人々の生活をよりよくすることに繋がることが求められます。デザインにおける目的と機能を考える、問題解決型の授業

「向こう側にいる人」を思える大人になってほしい



を通して、「向こう側にいる人」の思いを想像しながら様々な課題や解決策を考え、最後は自分で「これが最良の答えだ」と決断する。そんな力のある生徒を育てたいと思っています。

多くの試作品をつくり検証する

アイデアスケッチの後は、粘土で試作品をつくりまわす。完成品を一つつくりあげるのではなく、いくつものアイデアを立体にし、つくりながらアイデアを深め、後から検証ができるようにしました。デザインにおいては、ユーザーの意見を収集し改良を重ねることも大切です。様々なものをつくり、自分で使いついて意見を聞くことで改善点を見付けていく。こうしたプロ

セスを経験して欲しいと考え、試作品を生徒同士で交換し意見を出し合う時間を取りました。最後にイチオシを選んでコンセントをプレゼンテーションボードにまとめ、試作品も使いながら発表をします。課題を見いだし、相手をイメージしながら機能について考え、試作や検証を繰り返し、そしてプレゼンまですることで、生徒はデザインにおける課題解決の考え方やプロセスを深く理解できたのではないかと思います。



授業の中で使用したワークシートの一部がwebよりご覧いただけます。

図画工作、美術の授業で学んだことを生かすと、どんな世界が広がり、どんな未来が描けるのでしょうか。各地で活躍する高校生にスポットを当ててご紹介する「ラフスケッチ」。今回は、「びんくかくてる」という作品で監督と脚本を担当し、eiga worldcup2018（映画甲子園）で優秀美術賞を受賞した山崎鈴花さんにお話を伺いました。



東北生活文化大学高等学校
やまざき りんか
山崎 鈴花さん

*短編映画制作ワークショップ

東北生活文化大学高等学校の課外授業の一環。映画監督の片岡翔氏を講師に迎え、生徒たち自ら監督、脚本、撮影、編集を行い、グループワークを通じた主体的な学びにより映画を制作する。仙台短編映画祭などにも作品が選出されている。



作品に込めた思いを誰かと共感できる喜び。
映画との出会いが心震える瞬間をくれる。

本校の短編映画制作ワークショップ(*)は美術・デザイン科の特色の一つです。入学当時はあまり映画を観ていなかったのですが、映画制作に触れてみたいという動機もあり、すぐに参加を決めました。「音の洪水」という作品で初めて映画づくりや監督を経験して、一年生の終わりから「びんくかくてる」の制作を始めました。

「びんくかくてる」では監督と脚本を担当しましたが、着想を得たのは好きな音楽からでした。ミュージシャンの大森靖子さんのミュージックビデオを見たときに、その個性が強く、独創性のある内容に感銘を受けて、「こんな作品をつくりたい!」と思ったんです。私は趣味でボディペインティングをしているのですが、今は周囲に同じ趣味をもつ人が少ないこともあり、メジャーなものより少数派の世界を楽しむ人に興味がありました。そこで、本作品は周りに理解されにくい趣味を隠れて楽しんでいる人々を軸に物語を考えました。

特に映画の中に出てくる造形や色彩などにこだわったかったので、主人

公が持つぬいぐるみに服を着せたり、リボンをつけたり、劇中に登場する小道具や壁にかける装飾物なども仲間と相談しながら手づくりしました。結果的にそれらが評価され「映画甲子園」で優秀美術賞の獲得につながったのだと思います。

将来は映画監督を目指したくて、今は一日二本くらいの映画を観て学んでいます。少数派の人間をテーマに描いた作品は意外と多いのですが、観るたびに共感し、心が震えます。私も、言葉に表せない感情や心の痛みに寄り添えるような作品をつくっていきたいと思っています。私の思いが、作品を通じて私と同じような人と共鳴し、希望が届けられたらうれしいです。



びんくかくてる [カラー / 15分] 2018

自分の趣味を恥ずかしがって閉じこもっているちは、ある日、同じクラスの子の腕に描かれた綺麗な花を見付ける。

eiga worldcup2018（映画甲子園）とは —
国内最大の高校生の自主制作映画コンクール。自由部門と規定部門の2部門によるコンペティションが行われ、映画界などで活躍するプロの方々が審査員として参加する。応募作品は全国ケーブルテレビ局で放送され、優秀作品は他の映画祭でも上映される。

写真:菊地大作



「びんくかくてる」
映像は
こちらから

東京都庭園美術館

さわる小さな庭園美術館

教育普及（ミュージアム・エデュケーション）とは、美術館や博物館で展示と並行して行われている、美術や文化を主体的に学ぶことを支援するための様々なプログラムのことです。

今回は、東京都庭園美術館のウェルカムルームに常設されている、ラーニング・プログラムのツール「さわる小さな庭園美術館」について担当の板谷さんにお話しを伺いました。

触れない美術館だからこそ「さわる」体験を。

アールデコ建築の旧朝香宮邸や緑豊かな庭園を有する東京都庭園美術館。旧朝香宮邸は、建築様式やデザインだけでなく、素材・ディテールへのこだわりも魅力です。展覧会だけでなく建物自体も楽しんで欲しいのですが、重要文化財ですので壁や調度品に触ることはできません。そこで、二〇一四年のリニューアルに伴い開設した、ラーニング・プログラムのための部屋であるウェルカムルームに、「さわる小さな庭園美術館」をつくりました。

本物の質感にこだわり職人たちと共同制作。

「さわる小さな庭園美術館」は、テーブルの上に設置された「触知平

面図」や「形と素材のキューブ」などのツールで構成しています。「触知平面図」は旧朝香宮邸をフロアごとに表したレリーフ状の地図で、各部屋に特徴的な素材を用いたり装飾を施したりしています。また、館内で使われている素材や装飾を再現した「形と素材のキューブ」は、大理石や寄せ木、漆喰など素材本来の手触りや重量感なども楽しんでいただくため、職人たちに依頼してリアルな質感を追求しました。

いずれも自由に触れるので、幼児から高齢者、外国人や視覚に障がいのある方など、あらゆる人が楽しめるようになっていきます。

「さわる」体験で美術館をもっと身近に。

皆さん「さわる小さな庭園美術館」を初めて見たときは「何だろう?」と

いう反応ですが、館内を一巡してから接すると「これはあの部屋にあったね」「私はこの部屋が好きだな」など、理解や納得感が深まっていくように感じられます。そして、一緒にテーブルを囲みながら触れて感じるという行為を体験する中で、来館者同士の対話が生まれています。

これまで近隣の小中学校の団体や美術教員の方々にもご利用いただき、中には授業で活用したいという声も多数寄せられています。こうした体験を通じて、

特に子どもたちが、美術館は堅苦しい場所ではなく、もっと身近な場所だと感じられるようになったらうれしいですね。



かつての住人の生活を想像しながら地図をたどると、家族の物語にも思いを巡らせることができる。



展覧会を見る前の準備や見終わった後の振り返りの時間をここで過ごしてもらいたい。



いたやとしひろ
板谷敏弘
東京都庭園美術館
広報担当 学芸員



東京都庭園美術館
東京都港区白金台 5-21-9
TEL.03-3443-0201(代)
<https://www.teien-art-museum.ne.jp/>

そぞろみ部とは・・・

いろいろな場所をそぞろ歩きながら身の回りにあるものを造形的な見方・考え方で捉え直す、鑑賞と表現の部活動。部長は「文章」で、副部長は「スケッチ」で、気になるものや面白いなど感じたものを集めていきます。

今回のそぞろみ部は東北地方初上陸。山形県山形市にある東北芸術工科大学の学生5名と一緒に活動を行った。テーマ「窓」は、まち歩き好きの部員からの発案。普段はまじまじと観察することのない窓にアンテナを張りながら家々を眺めてみると、いつもの風景がまた違って見えてくる。高台にある大学から駅まで約5kmの道のりをそぞろ歩いた。



部長 / テキスト担当

いちかわひろし
市川寛也

東北芸術工科大学芸術学部専任講師。妖怪研究者。各地で「妖怪探集」と称する街歩きを実践中。主な著書に「怪異を歩く」(共著、青弓社、2016年)。

第9回 窓

そぞろみ部

そぞろみポイント①

窓の今昔ものがたり

そもそも、窓とは建物の内側から外側を眺めるための構造物であり、それ自体をまじまじと観察することはほとんどない。今回、改めて窓に注目して町を歩いてみて、時代による形の移り変わりがあることに気が付いた。歴史を感じさせる蔵の窓は重厚感のある扉が特徴的。格子の入った開口部は昔ながらの防犯システム? 今では珍しくなった木枠の窓もちらほら。少し古めのアパートでは三角形にせり出した出窓をよく見かける。その進化系として、建物の角の壁面がガラス張りになっていく角窓も。同じようなスタイルの窓を持つ建物が並んでいる場所もあり、時代による流行も感じさせる。ちなみに、最近の建物に多く見られたのは縦長の細い窓だった。

そぞろみポイント②

窓が切り取る景色

秋晴れの下、青く輝く窓が澄んだ空を切り取っていた。たくさん窓が並ぶビルはあたたかみも大きなスクリーンのように雲を反射している。よくよく見ると窓のふりをしたドアも発見。サングラスのように光を遮る加工がされた窓は、夕暮れ時のようにオレンジ色に輝いていた。透明の窓も、時間帯や角度によって様々な色を映し込む。これとは逆に、外から注ぎ込む光に色を着けるスタンドグラスにも出会った。一方で、開口部の形状によって景色をいろいろな形にトリミングしてくれるのも魅力の一つ。おなじみの四角形の窓だけではなく、屋根の形に沿った三角窓や白い壁面にうがれた丸窓。「月山公園」にあるお社には三日月形の覗き窓もあった。

そぞろみポイント③

窓際のギャラリ―

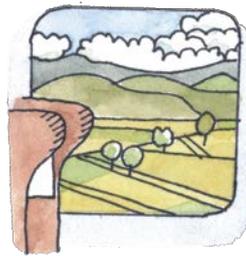
窓際にはその時々季節感が表れる。活動を行った十一月は干し柿シーズンの真っ只中。それぞれの家庭の方法で吊るされたオレンジ色の点描が窓辺を彩っていた。もう少し季節が進むとイルミネーションで飾られるのかもしれない。内と外の接点でもある窓には住民の個性がにじみ出る。道中でも、大小様々なトロフィーが並べられていたり、四体の小さな人形がこちらを向いていたり、何かしらのメッセージを発信している窓が見つかった。店舗の場合は文字通りのウィンドウショッピングだ。交差点に建つ家具屋の大きな窓はモデルルームの様相。食欲をそそるパン屋のガラス窓。飲食店の窓に並べられたボトル。物語の断片から窓の奥に広がる世界を想像してみる。



副部長 / スケッチ担当

いまいみち
今井未知

イラストレーター。女子美術短期大学造形学科(当時)卒。
パリのアトリエ・コントルポワンにて銅版画を学び
2000年よりフリーのイラストレーターとして活動。

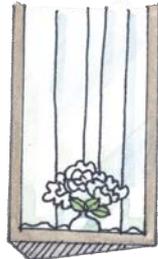
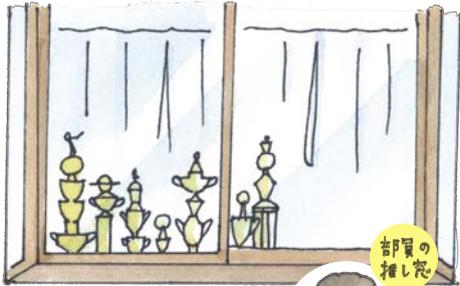


そぞろみ
IN 山歩き

景色を切り取る窓

窓際ギャラリー

窓辺に並ぶ
様々なモノ...



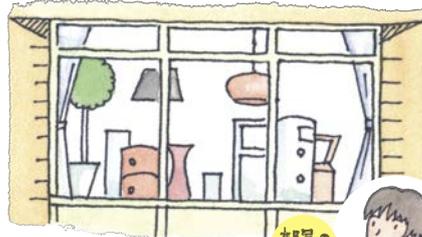
今回もたくさん歩いた
そぞろみ部。
様々な形や
用途の窓を
見付けました。



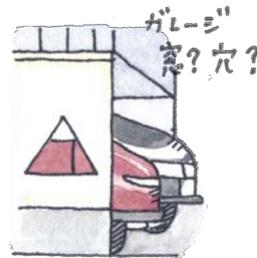
部員の
推し窓



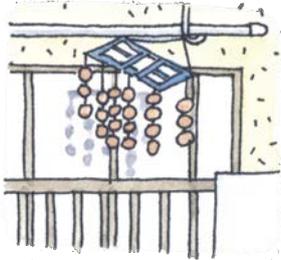
家具屋さんの窓



部員の
推し窓

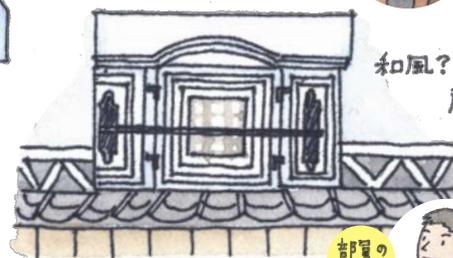


透光ガラスに
映り込む
葉の影



柿の干される
秋の窓辺

いろいろな
窓の形・素材



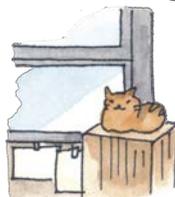
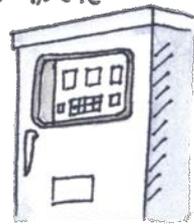
和風? 洋風?
蔵の窓

部員の
推し窓

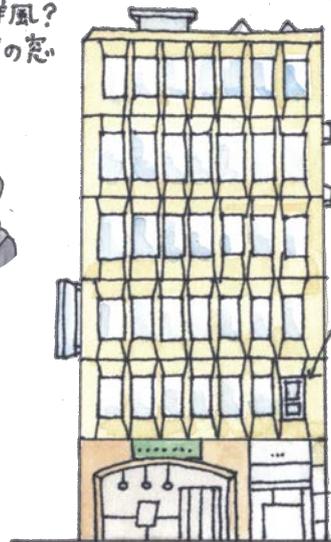


窓三兄弟

覗き窓



大学内の窓の前に
猫スペースが...!



たくさんの窓の中
ココにひとつだけ
ドア

部員の
推し窓



◎教科書関連ページ

平成 27 年 (2015 年) 度版 小学校図画工作教科書「図画工作 3・4 上」p. 42・43 まほうのとびらをあけると

平成 28 年 (2016 年) 度版 中学校美術教科書「美術 1」p. 8・9 見て感じて・描く

平成 29 年 (2017 年) 度版 高等学校芸術科美術 I 教科書「高校生の美術 1」p. 6-9 身近なものを描く

平成 31 年 (2019 年) 度版 高等学校芸術科美術 III 教科書「高校生の美術 3」p. 4-7 切り取られた風景

部員

大久保明香、大友李々花

熊田敏秀、富樫瑞紀、番匠 朱



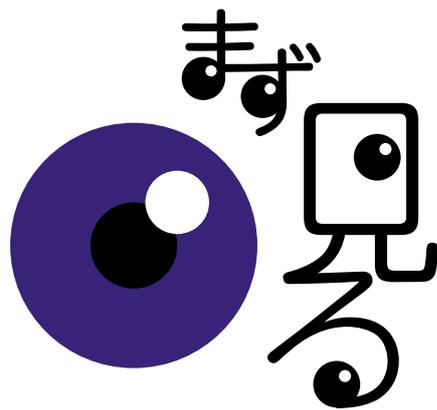
部員のワークシートは
こちらから



授業で使えるワークシートは
こちらから



窓の形や色、使っている材料、窓が切り取った景色。
そこからいろいろな想像も広がるね。
今度、子どもたちと一緒にやってみよう!



第二十回

教科書でもよく見かける、おなじみの美術作品。
見た気、知った気になっていても、
いつもと少し視点を変えてみると……、どうでしょう？
まず目の前に見えている要素を丁寧に拾い、
そこから読み解いていくための見方の実験を紹介しています。

感 触 の 素 を 探 っ て み る

閑かさや岩にしみ入る蝉の声

青々と伸びた木の葉越しに漏れる日差し、辺りに充満する蝉の声は岩に浸透するかのごとく延々と響いている。その中ではたとえ気付く、対称的に深閑とした自らの心の内——この句を読んで私たちの脳裏に浮かぶのはそのような景色でしょう。

極めて限定的な形式ゆえに、それが表す意味内容のみならず、いや意味内容よりも強く、語の選択や配置の妙へと自ずと意識を向けさせるのが俳句ですが、作家の井上ひさしは、この句に対して興味深い解釈を披露しています。井上が着目するのは音のリズム。しずかさ、しみいる、せみ。韻律をつくりだしている主要な音のうち三つまでもがサ行なの

です。「芭蕉という人がことばの大変な仕掛け人だったことに気づくのだ。サ行の音、すなわち「s」や「じ」が、静かさを現わす音だからである」（『私家版 日本語文法』一九八四年）。なるほど、たしかに！だからこそ、蝉との取り合わせが意外な「岩」の語を際立たせることにもつながっているのでしょう。これをすなわちイワ感と呼ぶ……という駄洒落はさておいて、芭蕉は音響効果を巧みに用いて、心を静かに集中させるホワイトノイズとしての「蝉しぐれ」を詠んだわけです。

サ行で連想するのが、関西で聞く「シュッとした」なる形容です。面白いのは、これを英訳しようとするとき「soft」「slender」「smart」「simple」「stylish」「slender」「smart」「sharp」「sophisticated」……。人類に

つる ずした え わ か かん
鶴図下絵和歌巻(部分)

[紙本金銀泥 / 34×1,356cm] 17世紀

京都国立博物館蔵

なわらや そうたつ
絵: 俵屋宗達 [生没年不詳]

ほん あ み こうえつ
書: 本阿弥光悦 [1558~1637]

↳ とって「s」が特定の意味に結び付けられやすいのには知りませんが、ここで言いたいのは、表現を構成する一つの要素が備えている潜在的な「感触」のことです。

俵屋宗達と本阿弥光悦による《鶴図下絵和歌巻》は、いかにも「リズム」の語を喚起させる作品です。書かれている和歌が読めない現代人にはなおさら、飛翔するというよりスタンプで押したような鶴の連続と、それに呼応した文字の上下運動は、音符が躍る五線譜のように見えてきます。しかし、これをただ「リズムカルだ」と形容するに留まるのはどこか物足りません。リズムの動きの面白さの一步先へ、踏み込みたい。

鶴が並んでいるからリズムカルなのでなく、それはもともと一羽の鶴の形の中に隠れていたリズムが増幅した結果なのではないでしょうか。細くやわらかなカーブから成るX字状の鶴が、優美で、軽やかで、繰り返したくなるような感触を備えていたために、それに触発された感覚がリズムをつくりだした。「s」音がふくらんで一句の全体を統制するに至ったのと同様に、むろん鶴はめでたいモチーフとして選ばれたのでもあったでしょう。けれども意味を超えて

(そのめでたさも鶴の形に由来するのかもしれませんが)、表現を組み立てている源の要素に目を凝らし耳を澄ますことで、遠く時代を隔てた作品にも、ぐっと近づくことができるとように思います。

ある単体の要素に、固有のリズムや感触が宿る。それは一つの造形の神秘です。その神秘に触れる体験は、きつと日常の生活の中にも豊かにフィードバックされてくるはず

成相 肇 なりあい・はじめ

東京ステーションギャラリー学芸員。
一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員を経て、二〇一二年から現職。
主な企画展に「石子順造の世界」、「ディスクバー、ディスクカバー・ジャパン」、「パロディ、二重の声」など。

〈今号のひと言〉

スーツが嫌いで着る必要もないので楽な格好をしています。どうして男物の服はこうも地味な色ばかりで、少しでも洒落たものは高いのでしょうか。もっと自由に、男女兼用の服も増えていいのに、いつも思います。「スニーカーのような履き心地の革靴」というのを見たことがあります。が、ならスニーカーを履けばいいのに!



東京ステーションギャラリー展覧会情報
「アルヴァ・アアルト もうひとつの自然」
(二〇一九年二月十六日~四月一四日)

「はじまりの美術館」は

福祉とアートが同居する場所として、

二〇一四年に開館しました。

あらゆる人の自己表現／実現を目指し、

アール・ブリュット作品を中心とした

企画展示を多く行っています。

館長の岡部兼芳おかべ たかよしさんに

その取り組みについて聞きました。

interview

はじまりの美術館 館長 岡部兼芳

―美術館設立の経緯は？

私は障がいのある方の生活を支援する生活支援員を長く務めてきました。知的に重度な障がいのある方のうち、仕事や作業的なものが苦手という方の日中の活動をどのように充実させていくかは常に課題です。

その中で創作活動が始まったということがあります。そして、そこでつくられたものの中に、びっくりするくらい面白いものがあり、それを、より多くの人に見てもらいたいと思った、ということがきっかけです。

拠点がなかった頃は、そういう作品を集めて、自分たちで小さい展示会を企画したり、公募展に出したりしていました。中には入賞するものもあり、海外で紹介される方も出始めた頃、二〇一〇年にフランスで『アール・ブリュット ジャポネ展』という企画展が開催されたのです。日本の作家が四〇数人、一堂で紹介され、逆輸入の形で国内での評価も高まりました。日本では一部の人たちが注目している程度だったアール・ブリュットですが、海外ではコレクターなんかもいたんです。

そういった流れの中で「こういう作品はどこに行けば見られるのか」

と聞かれることが増えていき、ますます常設する場所の必要性を感じたということもあります。

―アール・ブリュットの美術館を求める声が増えていったんですね。

運営側が面白いと感じるものをより多くの人に見てもらいたい、と考えたのがきっかけですが、展示を繰り返す中で、作品をつくる側も、多くの人に見てもらえることで満足度が高まることが分かってきました。つまり、常設するというのが重なるな、と考えたのです。

加えて、作品を見た人の障がいに對するイメージが変わっていく場面に何度も遭遇しました。展示の際、つくった人に来てもらい、見ている人に「この人がつくったんですよ」と伝える。すると、見ている人は「えー！」となる。それまでは障がいと聞くとネガティブなイメージが先行していた様子なのに、それがガラッと変わったことが、傍目にも感じられた。これは、そういう理解を進めていくのにすごく有効なんじゃないかと思うようになりました。

ただ、開館して、そういう側面もこの美術館の可能性のほんの一部なん

だな、と思うようになってきました。

―それは、どういうことですか？

言ってみれば、私どもは作品を知覚的に障がいのある方の理解のための道具として使おうと思っただけです。障がいのイメージを転換するための道具として。ところが、それは本当に狭い考えだったんです。

―どうということかというところ、実際に作品に触れてみると、もっと広いところで、それ以外の刺激がいっぱいあるんですね。

なんというか、作品を見た人が「こんなことをやってもいいんだ」とか「自分もなんかつくりたくなった」とか、障がいというめんではなくて、もっと根っこの方で、創造性が刺激された、想像力が広がった、というようなことがあれば、その方が実際には大事なんじゃないか、ということなんです。

障がいということに対して、作品を通してイメージ転換をしたとしても、実際にはその作品をつくった人への理解ということにはならない。障がいへのネガティブなイメージは良い方向に変わるかもしれないけれども、つくった人が実際に抱えている障がいや、そもそも障がいって何

なんだ？ というところには意識がいつてない。

ところが、見る人が、作品に刺激されたり、想像力が広がったり、ということがあるとすれば、それは、もっと広く見れば、じゃあ、この作品をつくった人はどう考えているんだろうとか、どう思っているんだろうとか、つくる側のことを考えるきっかけになるはず。それなら、広く深い意味でのお互いに対する思いやりというところにまで、見る人の感性が届いている、ということなんじゃないかと思うんですね。

―作品を通じて、お互いへの思いやりを深めていくことは、美術が担う大切な役割だと思えます。

これは、障がいの理解ということに限らず、実際の社会の中ですごく大事なことは、ここにある作品はそういう力を持っているんだなって、強く思い知らされていきます。障がいのある方の作品とか、アール・ブリュットの作品とか言われる以前に、そういう思いやりを誘発することはアートっていうものが持っている力の一つの大事な部分なんですよ。

想像力を働かせて、毎日工夫しながら、楽しく他者のことを思いやれるような、そういう積み重ねが、文化というものになっていくんだな、ということ、この美術館の運営の中で感じています。

―想像力はなぜ大切なのでしょう？

ちょっと話が脱線しちゃいますけれども、今の福島の実状から考えてみてはどうでしょうか。例えば、福島から避難した人たちに對する原発いじめという現実がある。今、障がいに對する先入観や偏見と同じように差別の構造ができています。福島に向けてられている視線は、障がいというものを見る視線と構造的にすごく似ているんです。

単純に障がいについて知ろう、福島の実状を知ろうっていうのは、もちろん大事なことです。けれども、それに想像力を加えれば、お互いに対する思いやりをより深くしていけると思うんですね。

そういう意味でも、アートから文化につながっていく連続性の中で、障がいのある方というのはすごく大事な部分を担っているんじゃないかと考えています。

▶岡部兼芳

Profile: 1974年福島県郡山市生まれ。福祉作業所支援員、臨時教員を経て、2003年社会福祉法人安積愛育園入社。障がいのある利用者の表現活動をサポートする「unico(ウーニコ)」に携わる。2014年より現職。



インタビュー
▶動画はこちらから

▶はじまりの美術館について



福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873
TEL・FAX: 0242-62-3454
http://hajimari-ac.com/

◎開館時間 10:00～18:00 火曜日休館
※火曜日が祝日の場合、水曜日が休館となります。
※展覧会の内容などによっては、開館時間と休館日が変更になる場合がございます。

2014年6月開館。築140年の酒蔵「十八間蔵」を改修して誕生した美術館。誰もが集える場所を目指し、福祉とアートが同居する美術館として運営中。

●「アール・ブリュット」とは……

美術家のジャン・デュビュッフェが教育など外からの影響を受けずに、自然であるがままの表現をしている人たちの作品を指して使った言葉です。この考えから、障がいのある人たちの素朴で率直な表現が芸術として見直されるようになりました。日本では障がいのある人のつくったアートという意味で使われることも多いですが、本来は、障がいの有無とは関係なしに、「つくりたい」という思いのままに自由に表現した作品全般を指しているものなのです。

大橋 功 おおはし いさお

岡山大学・大学院教授。日本文教出版、中学校「美術」著者。



スマホでも！



収録コーナーのご紹介

使ってみよう！

ずがこうさく
の教科書

解説 山田 芳明



図画工作の教科書、授業で使っていますか？ 基本の使い方から意外と知らない活用術まで、山田先生がまるっと教えます！

図工のお悩み相談室

図画工作の授業で、先生方がもつ疑問やお悩みに、全国のベテラン先生がお答えします。



**指導書デジタルデータ
サンプル動画のご紹介**

H27年度版図画工作教科書教師用指導書に収録されている用具動画のサンプルをご紹介します。



【Web マガジン】

● **学び!と美術**

奥村高明先生がおくる
図画工作・美術教育の最前線。

【機関誌・教育情報】

● **図工のみかた**

新学習指導要領について子どもの姿を基に分かりやすく語ります。

● **ABCシリーズ**

先生の心得から造形教育まで、4コマ漫画で解説。

【学習指導要領関連】

● **学習指導要領新旧対照表**

現行学習指導要領と新学習指導要領の対照表を掲載しています。

● **文部科学省情報**

文部科学省発信の図画工作科関連の情報を集めました。



日文 図工

検索

詳しくはWebへ！



中美チュービ

中学校美術の先生
応援サイト

スマホでも！



収録コーナーのご紹介

サイトオリジナル

大橋功先生★美術のチカラ

～美術による学びの成長ストーリー～

中学校美術による学びのチカラを、3年間の生徒の成長する姿に重ねて、大橋功先生と一緒に考えていく連載コラムです。

各界の方々に聞きました！

つながる美術

美術教育の素晴らしさを美術教育以外の視点からインタビュー。石黒浩氏（ロボット工学者）、浦谷幸史氏（芸術花火オーガナイザー）。

「形 forme」をさらに深める

中美な人

～もっと知りたい指導の工夫～

「学びのフロンティア」をWebでも展開します（中学校のみ）。

『村上センセイが行く！』

全国美術室探訪

隣の中学校は何をしているの？ 動画版

好評連載コーナーの動画版。村上先生と全国の美術の先生との対談をお見せします。

iPhoneアプリ「**中学美術先生のためのABC**」をWebにも展開

指導の悩みABC ～先輩からのアドバイス～

指導や授業での悩みや疑問を取り上げ、問題解決へのアドバイスを提案します。

授業づくりのABC ～題材のポイント～

表現・鑑賞の題材ごとにポイントを絞った解説を掲載します。

LINE@

はじめました



「友達募集中」

登録は、こちらのQRコードから！

普段お使いのLINEに
「中美(チュービ)」の
更新情報等をお届けします！

日文 中学美術

検索

詳しくはWebへ！



ABC PICK UP

子どもの思いに身を重ね、先生に寄り添う「ABC」。
子どもや図画工作について4コマ漫画で楽しく学べる同シリーズより、
今回は新刊の「題材のABC」から紹介します。

※このコーナーは、著者が選んだ4コマ漫画に、新たに書き起こした文章を掲載しています。



(「題材のABC」p.4より)

題材って何だろう

題材は、先生から子どもたちへ、資質・能力を入れて渡す贈り物です。つまり、題材を考えると、「子どもが興味をもち、意欲的に活動できるか」はもちろん、「活動を通して育む資質・能力は何か」を考える必要があります。例えば「運動会の絵」という、絵に表す内容自体は、そのまま題材にはなりません。また「作品主義」と呼ばれるような、できばえのみに偏る授業は、資質・能力の育成から程遠いところにあります。

題材を通して何が育つのかを明確にし、その上で、育成のために何をどのように指導するのかを考える必要があります。ですから、これからの授業研究は「どんな作品をつくらせたか」ではなく、「どんな授業で子どもを育てたのか」という指導が鍵になります。

▶▶▶ 題材の考え方については、特集ページ p.8 も併せてお読みください。

ABCシリーズのラインナップ

新刊



ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。
また、冊子をお送りすることもできます。



著者紹介
あべひろゆき
阿部宏行

1954年生まれ。北海道教育大学岩見沢校教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同 芸術ワーキンググループ委員(平成29年)、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査(小学校図画工作)」(平成29年)などを歴任。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。



小学校図画工作教科書



中学校美術教科書



高等学校美術教科書



高校1年 いつまでも同じ私じゃない [油彩・キャンバス/116.5×116.5cm] 2014
H29年(2017年)度版 高等学校芸術科美術I教科書「高校生の美術1」 p.21掲載
H26年(2014年)全国高等学校総合文化祭出展作品

高校生にとって、学校生活の日常的なシーンは格好のモチーフとなります。この作品は、頭髪検査の直前に急ぎよ髪を取り繕う生徒の様子と、「いつまでも同じ私じゃない」というタイトルからも分かるように、自分自身を変えていきたいという成長期特有の心情をかけ合わせた妙があります。髪を切っている人物は作者本人です。さらには写実的な表現を目指して、情景描写を忠実にしている点がこの作品をより一層盛り上げてくれます。

当時高校一年生だった彼女を指導していた際、思い通りに描けない自分に制作途中、何度となく涙を流していたことを覚えています。まさにこの作品の制作プロセスそのものがタイトル化しているようです。周囲の様子も気にかげず、息をひそめ真剣なまなざしで前髪を切っているその姿から、「自分を変えたい」という気持ちを表現するために、制作に真摯しんしに向き合う作者としての潔さものがさっています。

あなたはご存知ですか？

| 小 | 中 | 高 |

形 forme No.317-2019

日文教育資料 [図画工作・美術]

平成31年(2019年)2月25日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33428

制作：株式会社 東京矢印

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690